

アクティブ・ラーニングを超えて ～自分で自分を成長させる次世代教育～

1w-0

創造的な思考
設計思想

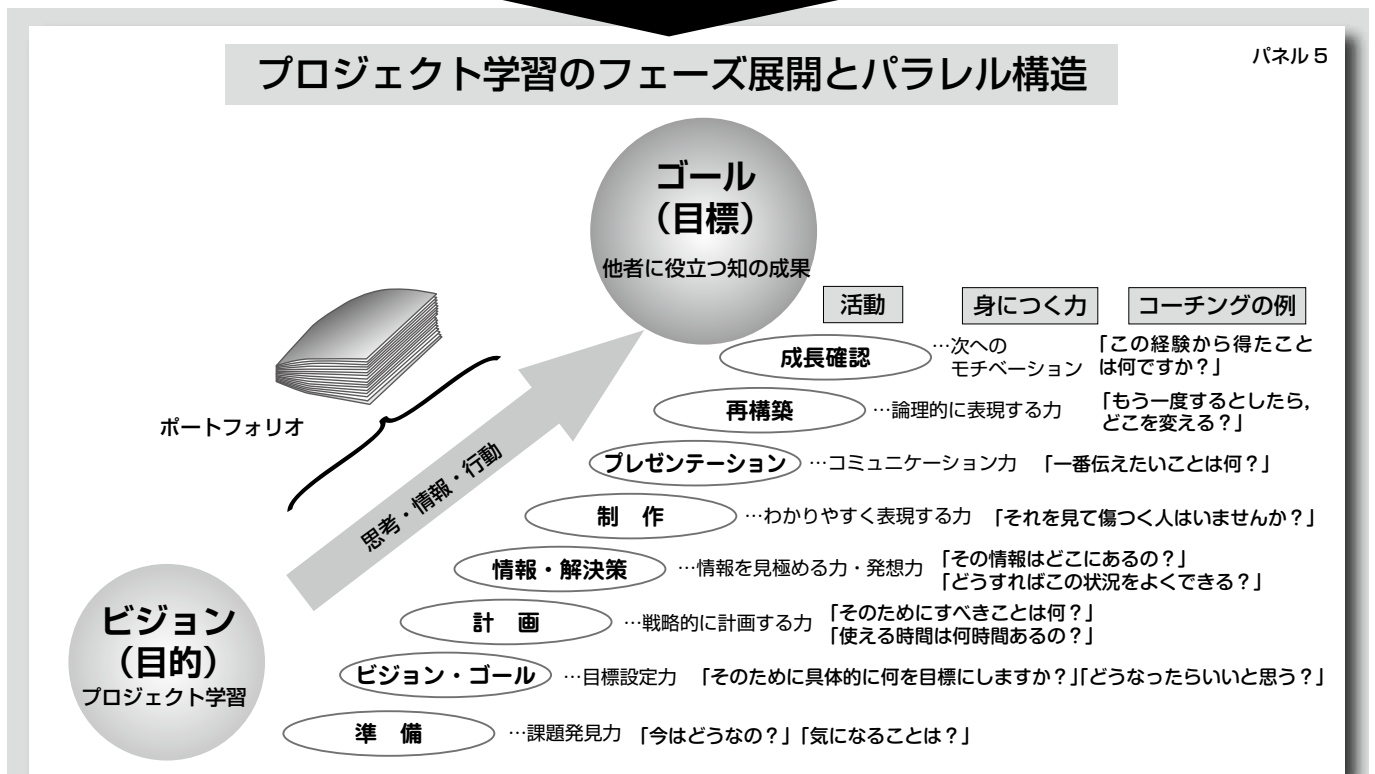
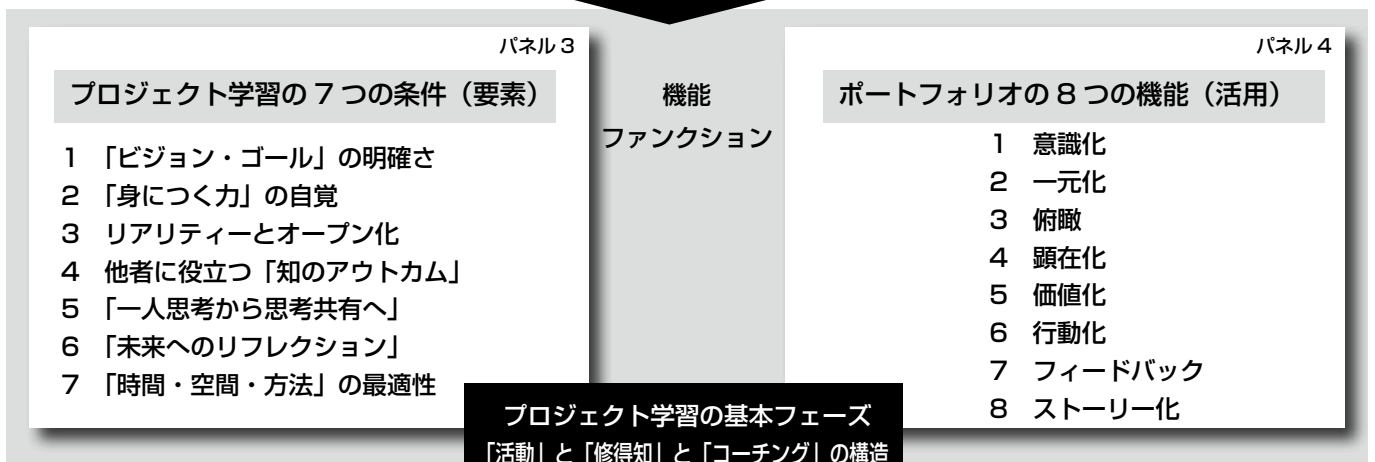
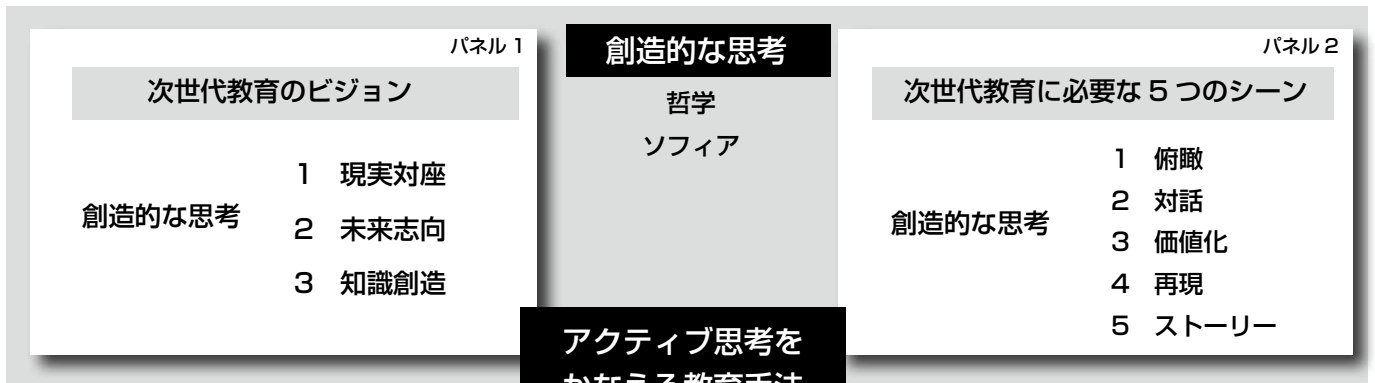
Archiect 未来教育クリエイター / 鈴木敏恵

- 創造的な思考 / Creative thinking
- 次世代教育5つの原理原則
- アクティブ思考をかなえる教育手法



出版予定の新刊原稿のため一切の無断転載・翻訳等を禁ず。
教育機関で使用される場合は、必ず出典 [『創造的な思考をかなえる次世代教育の設計思想 2015』 論文 鈴木敏恵] を明記してください。

次世代教育の設計思想



「課題解決力と論理的思考が身につく プロジェクト学習の基本と手法」 p23 を改編

出版予定の新刊原稿のため一切の無断転載・翻訳等を禁ず。
教育機関で使用される場合は、必ず出典 [『創造的な思考をかなえる次世代教育の設計思想 2015』 論文 鈴木敏恵] を明記してください。

「創造的な思考」次世代教育のビジョン

次世代教育に必要な5つのシーンはこれだ

1 なぜ現実対座？

教育と現実の乖離／ネット空間に生身で生きることはできない

現実データがいつでも手に入る（vs 出来合い教材）

- 必要なのは、現実に対座できる人
- 妥協せずありとあらゆることを考え尽くせる
- 目の前の状況・経験を価値化できる
- 創造性は現実の上に

2 どうやって未来志向を？

- ありたい未来を描け、その実現へ向かう人
- すべてのものはもっとよくできると前向きな探求
- あらゆる創造も課題解決も、未来を信じていればこそ

3 知識創造が求められるのは…

- これまでの知識の積み重ねだけでは次世代の社会では済まない
- 知識と知識をしなやかに組み合わせる創造できる
- いま自分が考えたこと、創造したものが後へ続く

パネル 1

次世代教育のビジョン

- 創造的な思考
- 1 現実対座
 - 2 未来志向
 - 3 知識創造

新しい教育の哲学ー 5 つの原理原則

次世代教育に必要な5つのシーン

1 俯瞰

主体性をもって学ぶためには、自分が対座する知の対象を「俯瞰」することが求められます。

「結果」でなくプロセスを俯瞰して学生を伸ばす。

2 対話

他者と対話できるためには、真摯な自己対話が欠かせない。

対話とは目に見えない価値が行き交うもの。互いに敬意。

3 価値

経験を価値化する。

経験を価値化すると普遍化につながる。

フィードバックして 価値化するシーンが入っているか？

ある瞬間をズームして迫るそのシーン。

自己評価は感想(や情意でなく)でなく価値化

4 再現

再現できることを意識しているか？ 違う状況でも同じ

ように再現できるためには「本質」や「普遍性」を押さえる

ことが必要。

5 ストーリー

部分部分の”ロジック組み立て”だけでは、心は動きません。

部分ではなく全体の文脈、過去、現在、未来の一連を俯瞰する。

パネル 2

次世代教育に必要な 5 つのシーン

- 創造的な思考
- 1 俯瞰
 - 2 対話
 - 3 価値化
 - 4 再現
 - 5 ストーリー

「創造的な思考」プロジェクト学習 7つの条件

1 「ビジョン・ゴール」の存在

自らビジョンとゴールを設定できる＝看護計画。患者への力になる、ビジョン描ける人。

2 「身につく力」の自覚

授業、演習、実習…それで自分がよき変化変容、思考プロセスを身につけることができるか(学習者としてできたか)

3 「リアリティー & オープン化」

学習のゴール＝社会のニーズ授業にリアルデータ／新鮮情報リアリティーを取り込む。オープン性。

4 他者に役立つ「知のアウトカム」

プロジェクト学習のゴールを「他者に役立つ知の成果物」を生み上げることにする＝知識創造。共有「凝縮ポートフォリオ」

5 「一人思考から思考共有へ」

考えを生むためには、俯瞰しながら一人で考え、その思考を共有する＝「思考共有」というシーンを明確に分ける。

6 「未来へのリフレクション」

マイルストーン、基本フェーズで立ち止まりセルフコーチング「何のために何をやり遂げたかったのか自分？」

7 「時間・空間・方法」の最適化

アクティブな学びがかなうためには、いつ、どこで、どんなふうかを学習者が理解していること、その最適性。

パネル3

プロジェクト学習の7つの条件(要素)

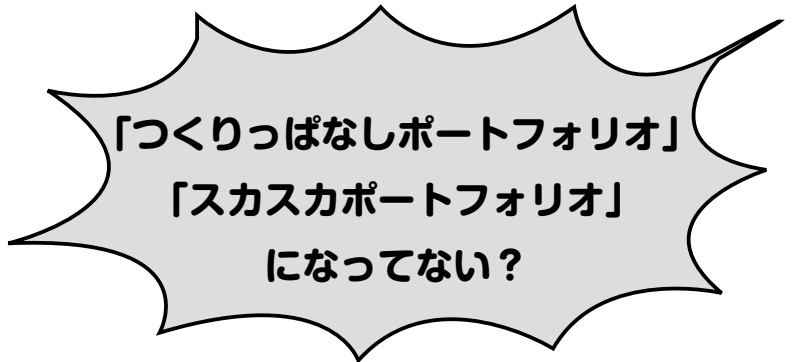
- 1 「ビジョン・ゴール」の明確さ
- 2 「身につく力」の自覚
- 3 リアリティーとオープン化
- 4 他者に役立つ「知のアウトカム」
- 5 「一人思考から思考共有へ」
- 6 「未来へのリフレクション」
- 7 「時間・空間・方法」の最適性

「アクティブ思考」をかなえる ポートフォリオ 8 機能

パネル 4

ポートフォリオの 8 つの機能（活用）

- 1 意識化
- 2 一元化
- 3 俯瞰
- 4 顕在化
- 5 価値化
- 6 行動化
- 7 フィードバック
- 8 ストーリー化



一冊のファイルを戦略的な仕組みと意図的な関わりで成長ツールとして機能拡張させポートフォリオとする。大前提として、ポートフォリオに「潤沢な中身」が詰まっていること、「エビデンス」を示せるものが「時系列」に入っていること

ポートフォリオ 8 機能

1 意識化

ビジョンとゴールを明確にする
課題発見のセンサーを研ぎ澄ます

2 一元化

バラバラの情報の一元化
思考をたどる拠りどころとなる

3 俯瞰

全体と部分の関係が見える
プロセス全体を客観的に見える

4 顕在化

暗黙知、潜在知、可能性が見える
人間的な要素 感性 能力

5 価値化

経験に潜む意味・解釈
比較、相違、関係、関連が見える

指導者にこそ必要な
クリエイティブ思考

どうしたら
ポートフォリオが
潤沢になるかがカギ！



8 ストーリー化

過去、現在、未来を文脈でつなぐ
ストーリー展開で進化

7 フィードバック

成果、成長
数値化できない評価

6 行動化

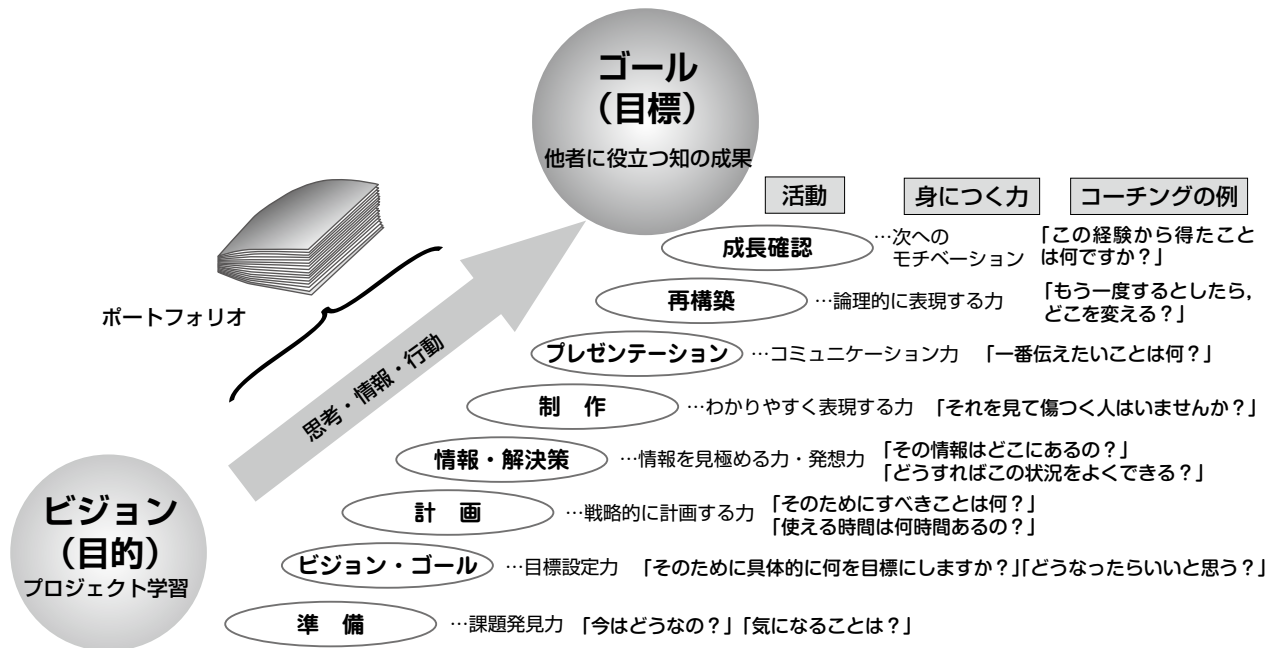
アウトカム
トライアンドエラー

次世代教育の展開と構造

「活動」と「修得知」と「コーチング」を平行にとらえる新しい教育発想

パネル5

プロジェクト学習のフェーズ展開とパラレル構造



「課題解決力と論理的思考が身につく プロジェクト学習の基本と手法」 p23 を改編

■ 基本フェーズ3パラレル構造が存在する効果

- 次を予測して今すべきことを考えられる
- 活動が大事なんじゃない、成長（力を身につけること）が大事なんだ、を知る
- 学習者がセルフコーチング
- 『活動』は、クリアカット、というプロジェクトの鉄則を知ることができる
- 『思考』は、前のフェーズからの積み重ね
- すべてのできごとは、未来への伏線

アクティブ思考の5つの哲学……学習者用セルフコーチング

自分で自分を成長させるために

- 1 俯瞰 私はその対象を見るとき部分だけみてないか、「俯瞰」することを忘れていないか。
- 2 再現 教わるとき同時に自分の頭の中でそれを見える映像のように同時再現しているか。
- 3 価値化 私はフィードバックして大事なことは何かと「価値化」することを忘れていないか。
- 4 対話 自らと「対話」することをしているか。他者と積極的に「対話」しているか。
- 5 ストーリー 目の前の事態をワンシーンとしてとらえストーリーとして語っているか。

アクティブ思考の5つの哲学……教育者用セルフコーチング

学習者が成長するための教育デザイン

- 1 俯瞰 学生が授業全体を俯瞰するというシーンがシラバスの中に入っているか。
- 2 再現 再現できることを考えて提供しているか。
- 3 価値化 価値化する時間や仕組みをいれているか／経験の価値化
- 4 対話 対話コーチング リフレクションに終えずリフレーミング（違った見方）
- 5 ストーリー ストーリーで語り、ストーリーで聞ける力、ストーリーとしての結びをもっている。

教育者が「創造的な思考」になるために

鈴木敏恵より

タイトル	コンテンツ
1 課題こそが成長をくれる	いいものをつくりたいという決意は、同時に私たちに「課題」を与え続ける。
2 指導者の仕事	指導者は、本人に何かさせることが、仕事ではない。本人が自問自答できるようなクリエイティブな自己への追求ができることが、仕事。
3 ビジョンとゴールを明確に	プロジェクト学習は、学習者自身が「ビジョン(目的)」と「ゴール(目標)」を明確にしてスタートします。何のために何をやり遂げたいのかが常にはっきりしているので、揺るぎなく進めることができ、意志ある学びをかなえます。
4 考えるとは	相似、比較、分類、関係性、関連性を検討すること。
5 ポートフォリオで俯瞰	ポートフォリオで俯瞰すればこそ、長期的な自分の行動特性や思考特性が見える。
6 目標設定	目標を設定するためには、課題意識や願いなどがその前に必要です。だから、自分の現実の中から“自分ごと”として、なんとかしたいという「課題意識」を持てることが不可欠であり、すべてのスタートとなります。
7 パーソナルポートフォリオ	個人のパーソナリティがわかってくると、絡みようがある、問いかけようがある。
8 元ポートフォリオ	いまだんな「知識」や「スキル」を獲得しているのか、目指すもののためには何か足りないかなども見えるので、学習者本人、教師のそばにいない外部の講師やゲストなど第三者でも支援や具体的なアドバイスもできます。
9 解がないこと	パフォーマンスとは、解がないということのもとに、自己改善ができるというのには、苦さや大人さがあるよ。面倒くさいがオモシロイ。
10 物語	どんな物語にも全体を貫くテーマがあります。
11 ポートフォリオの価値	ただ目の前のことをするだけでは、仕事も成長もそこそこの成果しか望めません。問いに答え続けようとする意志を支えるのがポートフォリオです。
12 根拠の在処	根拠は、自分の中にあるんだから。先輩の目を見ながら、探すものじゃないよ。
13 ロックオン	ロックオンはありそうでない。集合体のようなもの。矢は一本ではない。
14 ゴールを意識した授業	授業の始めに「今日の目標」を明確にします。例えば、「今日の目標は〇〇をつかむ！です」と言いながら教師は黒板にしっかり書きます。
15 すべてのこと	すべてのことはもっと良くなる。
16 正解なき時代に	正解なき時代。そこで求められるのは、マニュアルや、先輩や上司のいう通りにできることではなく、暗記している知識の量や公式で解ける力でもありません。それはあふれる情報から自ら知を獲得できる力、見極める力、それを自分の頭で考え、活かせる力です。そして自分と異なる文化・言語や価値観を持つ人にただ自説だけを主張し対立するのではなく、互いに知恵を出し合い、ベストな解決策を考え出せる創造的なコミュニケーション力です。
17 指導者から相手に	相手にそうなってほしいなら、率直に「私があなたにしてほしいのは、早く仕事を覚えてほしいのではなく、唯一の解をそこでするのがなく、こうかなあ、ああかなあ、と、患者さんが1000人いれば、1000個ある無駄玉も当たり玉のような、その1つを」と。
18 夢はやすやすとかなわない	「意志ある学び」は、どうしたら実現するのでしょうか。ここに応えるのが、「プロジェクト学習」です。それは、学習者が自ら課題を発見し、目標を明確にして、情報を集め、課題解決していく手法です。 自分のポートフォリオをあらためてめくってみると、達成感というものはその簡単に味わえないことがよくわかります。けれど、自分に誇りを感じます。なぜなら、ポートフォリオを見れば、懸命に歩いてきた自分がたしかにいる、からです。

出版予定の新刊原稿のため一切の無断転載・翻訳等を禁ず。

教育機関で使用される場合は、必ず出典 [「創造的な思考をかなえる次世代教育の設計思想 2015」論文 鈴木敏恵] を明記してください。